



神奈川・

# 腹話術人形を活用

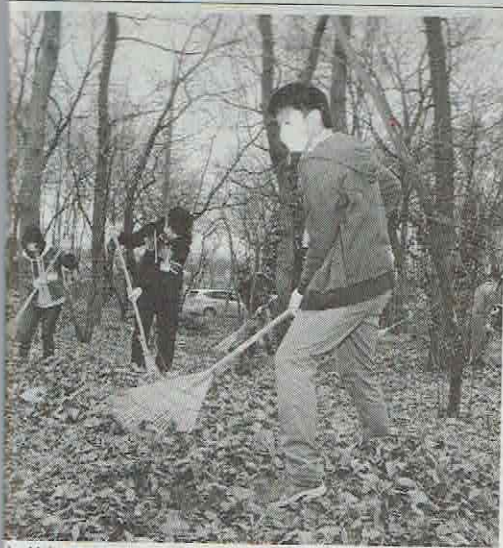
「腹話術」の推進員として活動している。各支所で開くお茶飲み交流会などで、親しみやすい腹話術を生かした健口体操が好評なことから、同部が全体活動に取り入れた。本部役員会では、加齢による口腔機能などの衰えや、それを軽減させる体操

## 表情豊か

同グループの太木トキ子代表は「女性部での活動をきっかけに、高齢者やお子さんなどにも健口体操が広がれば、お口から地域の元気を発信したい」と意気込む。(神奈川・秦野)

食と農の教室  
受講生を募集  
千葉県成田市  
【ちば】有機農業歴29年の「おかげさま農場」の高柳功代表が教室長を務める、千葉県成田市の「食と農の教室」が、受講生を募集している。20日の第1回から11月の第10回まで、毎月1回、田植えや野菜作り、こうじ、稲わら納豆作りなど、自然に囲まれながら体験し、農村の暮らしや有機農業を学ぶ。主催は同市で農村体験の場を提供する「みんなの農村ネットワーク」。  
同市食育推進計画に基づき農業体験教室の一つの第10回まで、毎月1回、田植えや野菜作り、こうじ、稲わら納豆作りなど、自然に囲まれながら体験し、農村の暮らしや有機農業を学ぶ。主催は同市で農村体験の場を提供する「みんなの農村ネットワーク」。

# 体験で学ぶ が落ち葉掃き



ち葉掃きを体験する高校生ら

され、農家の屋敷、畑、平地林の順に配置された地域独特の景観が広がる。300年以上前から農地と平地林を活用した循環型農業を続ける。高橋尚己さんの平地林では、「平地林の落ち葉掃きと循環型農業」の取り組みや作業の仕方などの説明を受け、落ち葉掃きを体験した。午後は、尚美学園大学尚美総合芸術センターの横山和成副センター長が講義。同氏は食と農に焦点を当てた「ミッド博」にもゲストとして参加し、日本館のテーマ「共存する多様性」のもと、研究発表を行った。同日

## 緑地帯

千葉県大網白里市の特定非営利活動法人(NPO法人)シヨブファームで、農業に従事する障害者が、酒造好適米を栽培している。この米を原料に日本酒を造り6日、東京でお披露目式が開かれた。障害者の労働を支援する一般社団法人ハッピーチョイスが企画、同ファームなどが協力した。お披露目式で栽培に携わった障害者が「頑張って栽培した」と話す。会場は大きな拍手に包ま

れ、完成を祝っていた。福祉と農業が協力し合う農福連携も最近、紙面でよく見掛けられるようになった。栃木県では1月、「ユニバーサル農業推進セミナー」が開かれ、農業が持つ「福祉力」の可能性を探った。農畜産物を価格だけで判断するのではなく、消費者に広く知ってもらうことが欠かせない。産地振興や経営力など、生産者側の強化だけでなく、農業の役割を、もっと発信することも重要だ。

### 農福連携の広がり期待

農畜産物を価格だけで判断するのではなく、消費者に広く知ってもらうことが欠かせない。産地振興や経営力など、生産者側の強化だけでなく、農業の役割を、もっと発信することも重要だ。

